

片手で食事を行いやすくするための器

自律した食事環境から快適な食事へ

A container that can be eaten with one hand

From autonomous to comfortable eating environment

内山 愛恵 指導教員 坂元 愛史

サレジオ工業高等専門学校 デザイン学科 インテリア・家具研究室

キーワード：介護，食事，自律

1. 動機

「自律」は人が生きる上で重要である。特に生活の中で食事という時間は最も自律的であることが大切であろう。しかし私の兄は障害を持っており、その影響から手の力加減が上手く出来ない。特に食事のときはそれが顕著に出てしまう。スプーンを使用して食事をしているが、食べ物によっては介助が必要となる。その状況を兄は気分良く思っていない瞬間があるようだ。食事はとても楽しい時間であるはずなのにそれが何らかの形で制御されたら、楽しみは半減されるのではないだろうか。自分の手で、意思で、食事することに意味があるのだと考えた。そこで兄と同じような障害を持つ人が自分の手と意思で食事を摂ることのできる道具の提案を目指すこととした。

2. 調査内容

1. 兄が主に持っている障害

- ・てんかん ・重度知的障害
- ・外販偏平足 ・重度難聴

2. 問題視している事柄

- ・握力が弱い ・姿勢が悪い
- ・咀嚼ができない ・細かい手の動きが困難

これらの事柄から自らの手で食事を行うことが非常に困難な状況であると考えた。

3. 私たち家族がしている兄へ出す食事の工夫

基本的に私たちは同じものを食べるようにしている。兄は咀嚼が困難であるため我が家では次のような工夫を行っている。

柔らかくする

- ・水分をかけて食材を柔らかくする。
- ・ご飯を炊く時は水を多めに足して軟飯にする。

飲み込みやすくする

- ・食用ハサミで刻む。刻みが困難なものは除外する。



舌で潰しやすくする

- ・しっかり食材を煮込ませる

4. 環境

①本人の心理環境

食べさせてもらうということは本人にとってストレスである。食事は自分の意志で行うことが重要であるのだから、一人で自律した食事が求められるのではないか。

②食事行為にかかる環境

- ・食べ物をこぼしてしまうことで机や床を汚してしまう。
- ・手、口周りが汚れる。
- ・知的障害である為、マナーや食事の仕方を指摘しても理解できない。

③本人を囲む周りの心理環境

- ・上記の「食事環境」から食事のマナーに関する指摘が挙がった。
- ・汁物などの食べにくい食材は家族で食べさせてサポートしているため自分たちの食事を後回しにすることがある。

3. コンセプト

問題点の整理から、食事をより快適にするために今回の研究では

- ・食事を食べさせる側、食べさせられる側の双方に食事時の負担やストレスを軽減させたい。
- ・食べ物を道具によって食事環境を整えたい。

よって、コンセプトは

「自律した食事環境から快適な食事へ」
を掲げる。

4. 方法

「自律した食事」を行うために必要な要素を3つにまとめた。

- ・片手で食事をしやすくする。
- ・スプーンで掬いやすくする。
- ・食器を倒れにくくする。

今回の提案品はこの3つを踏まえた上で考えた。

5. 提案

2016年度にサレジオ高専の卒業研究で提案された「犬食い改善のための道具(デザイン学科 インテリア・家具研究室 5AD25 佐藤幸也)」※①と併用して使用できそうな食器の提案を考えた。

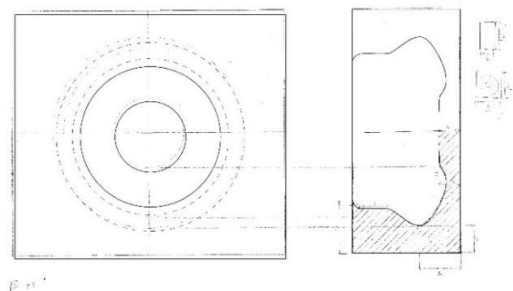


犬食いは姿勢だけではなく食事の効率性が下がってしまう。またうつむいている状態と一緒に食事を囲んでいる周りの人とのコミュニケーションが難しくなってしまう。

この食器台はそうした犬食いの問題点を突き、より食事の充実性を図ったものである。

そしてこの食器台の利用を前提として、その上で使える「食べる本人がスプーンを使用して片手で食事がしやすくなる食器」を提案する。

外形は四角く、中は器のように丸い形状。数々の介護食器を調べ、中は特殊な形状にデザインした。



6. 結果

食器の外形が従来の円形から四角にすることで食器台にはめ込んで使用することができる。そうすれば食器が固定され、人の軽い力でも食器のずれを防ぐことができる。

スプーンを片手で掬いやすくなるように、器の中の形状に凹凸を作る。食事がよりしやすくなれば、自律した食事が行え、自尊心が深まるだろうと考えた。そして食事でのコミュニケーションが深まり充実した時間を送れるだろう。

7. 課題

試作品を使用して、実際に兄に食事をしてもらう。そこからこの提案物の課題や改善策を見つけていきたい。

8. リンク元

※①

<http://www.salesio-sp.ac.jp/main/sotsuken/index.html>